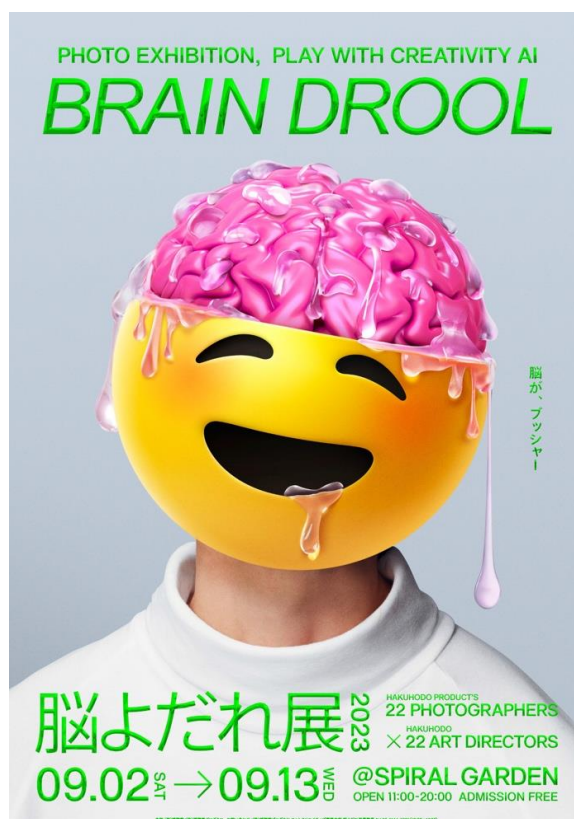


2023年8月18日
株式会社 博報堂プロダクツ
株式会社 博報堂**博報堂プロダクツのフォトグラファー22名と博報堂のアートディレクター22名が
タッグを組んだ写真展「脳よだれ展 2023」を9月2日～13日まで開催**

- 来場者が提供する写真を“AIはどう感じるのか?” アート体験も楽しめる -

株式会社博報堂プロダクツ（本社：東京都江東区、代表取締役社長：岸 直彦）のフォトグラファー22名と株式会社博報堂（本社：東京都港区、代表取締役社長：水島 正幸）のアートディレクター22名がタッグを組み、企画・制作した写真展「脳よだれ展 2023」（<https://brain-drool.jp/2023/>）を2023年9月2日（土）～9月13日（水） [Spiral Garden（表参道）](#)にて開催いたします。

「脳よだれ展 -Photo Exhibition Brain Drool-」とは、博報堂プロダクツのフォトグラファーと博報堂のアートディレクターが1対1でペアを組み、自由に作品をつくる「本能に訴えかける写真展」です。VOICES展（2015）、脳よだれ展（2016、2018）から数えて、今回で4回目となり、ADFEST2017(アジア太平洋広告祭)での展示などを通じて、Brain Drool（本能をゆり動かす）というコンセプトは、世界に通じる非常にユニークなものだと知られてきました。広告に関連するテクノロジーや仕組みが、ますます高度化・複雑化していく中で、もう一度、広告ビジュアルの存在意義を確認し、本来の力を見直そう、言葉や理屈を超えて、人間の本能に強く働きかけるビジュアルを究めてみよう、という試みです。



今回の「脳よだれ展 2023」では、「ヒトの本能をゆさぶるビジュアルへの挑戦」に加え、この時代に避けて通れない「AI という別知性と対峙する挑戦」にも取り組みました。

脳よだれを溢れさせる写真展示に加え、会場にある AI コンテンツ体験ゾーンには、モノリスをイメージした高さ約 5 m の AI 体験装置を設置。このモノリスには、博報堂グループのフォトグラファーとアートディレクターの感性を学習した Creativity AI「脳よだれくん」を搭載しており、会場の展示写真や来場者が提供する写真を鑑賞させると、本能を直撃する度合いによって、さまざまに脳よだれを噴出させる様子が投影されます。色々な表情をみせる「脳よだれくん」との AI アート体験をお楽しみください。

この AI を活用した体験型イベントは、博報堂プロダクツのフォトクリエイティブ事業本部だけでなく、デジタルプロモーション事業本部、イベント・スペースプロモーション事業本部、映像クリエイティブ事業本部、リテールプロモーション事業本部も参画した新しいチャレンジです。

22 組の広告のプロフェッショナルがつくる、見る人の脳内にその欲求を掻き立て「脳よだれ」を噴出させる作品をぜひ会場にて、ご覧いただけますと幸いです。

■ 脳よだれ展 2023 概要

- ・ 日時：2023 年 9 月 2 日（土）～9 月 13 日（水）
11：00～20：00
- ・ 会場：[Spiral Garden（表参道）](#)
東京都港区南青山 5-6-23 スパイラル 1F
- ・ 費用：入場無料
- ・ 主催：株式会社博報堂プロダクツ、株式会社博報堂
- ・ URL：<https://brain-drool.jp/2023/>
※会場では写真集も販売しております

Creativity AI「脳よだれくん」



22組の博報堂プロダクツ フォトグラファー×博報堂 アートディレクター

(敬称略)

博報堂プロダクツ 22 PHOTOGRAPHERS	博報堂 22 ART DIRECTORS
高橋 秀行	関谷 奈々
青野 千紘	野田 紗代
池田 献児	中谷 佳保里
岩切 浩三郎	市田 啓幸
百々 新	榮 良太
石川 清以子	岡室 健
岡 祐介	柿崎 裕生
大木 謙一	原野 賢太郎
水島 大介	堅田 真衣
廣瀬 達郎	徳野 佑樹 ※1
島村 朋子	竹上 淳志
平田 正和	山下 隼太郎
本村 仁	伊藤 裕平
平松 真帆	川辺 圭
大津 央	中山 沙織
辻 徹也	橋本 暦
長野 柊太郎	小暮 菜月
渡邊 成美	鈴木 克彦
古川 泰子	後藤 大
堤 悠貴	小畑 茜
亀井 友吉	杉山 ヌキ
鈴木 康平	タルボット 才門

※ 文中に記載されている会社名、商品名は各社の商標または、登録商標です。

※ この情報は発表日現在の情報です。検索日と異なる可能性がございますのであらかじめご了承ください。

※1 2023年6月に退職。博報堂在籍中の作品です。